



近所で声を掛け合うことも支えあい大切なことの一つです。

どうする？災害時の在宅医療連携

第12回 医療と介護のシンポジウム

11月30日(土)、情報交流館カメラアで医師や看護師、介護福祉士など在宅医療に携わるさまざまな立場の人が集まりシンポジウムが開催されました。テレビではあまり報道されない災害時のトイレ事情についての講演の他、自宅で過ごす高齢者をどう支えればよいかをテーマに6人が発表。平成30年の豪雪の際の話など、実際に経験しなければわからなかった事柄を通して、平常時から心掛けるべきことや関わり方などを学びました。

花飾り作りがボランティアに？！

ちょっとボランティア

12月3日(火)、多機能型事業所椿で「ちょっとボランティア」が行われました。これは市社会福祉協議会が企画したもので、就労支援事業所が販売するご祝儀袋の制作を楽しみながらお手伝いする試みです。この日は事前に申し込んだ8人が、施設利用者が牛乳パックから作った袋に添える水引の花飾りを作りました。初めは難しそうにしていた参加者も、2個3個と作るうちに上手くなり、色とりどりの梅結びが出来上がりました。和やかに楽しめるボランティアって良いですね。



次回2月のちょっとボランティアではひな飾りを作ります。



今年から新アイテム「霧吹き」が登場。よりきれいな仕上がりに

真っ白な障子で新たな年のスタートを 一人暮らし高齢者宅障子張り奉仕事業

市商工会青年部員と民生委員が連携し毎年実施している障子張り替え奉仕事業が、12月15日(日)に行われました。富奥地区11軒分50枚の障子を25人の青年部員が手際よく真っ白な障子紙に張り替えました。

今回初めて参加した青年部員は、「障子を取りに行ったときに喜んでくれたのがとても嬉しかったです。教えてもらいながらきれいに貼れるように頑張りました」と話していました。きれいになった障子で迎える新年はきっと気持ちのよいものになることでしょう。



アカペラで織りなす心地よいハーモニーに聞きほれていました。

人形劇とアカペラで楽しむクリスマス

中央児童館クリスマス会

12月14日(土)に中央児童館クリスマス会が行われ、幼児親子や小学生など約40人が参加しました。初めに“家庭文庫おはなしのいえ”によるペープサート劇「ひつじのしたてや」を観劇。登場する動物のキャラクターと仕立てられる衣装に「かわいい！」と声が上がりました。その後、アカペラグループ“ひだまり japan”が歌声を披露。観客を巻き込む振り付けを交え、会場一体となり音楽を楽しみました。最後はサンタクロースも登場し、クリスマス気分を一層盛り上げていました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎227-6056

ジャズ黄金時代へのトリビュート BIG APPLE in Nonoichi 2019

11月23日(土)、24日(日)、文化会館フォルテで25回目となるジャズの祭典、「BIG APPLE」が開催されました。ニューヨークのジャズシーンをリードするトランペットのジェレミー・ペルトさんをリーダーとする名だたる演奏者たちが野々市に集結。圧巻のパフォーマンスを披露しました。また、オープニングには8月に開催した「大学生ジャズコンボフェスティバル」でBIG APPLEへの出場権を獲得した大学生グループ“Pseudostudents quartet”(シュードスチューデントツカルテット)が登場し、勢い溢れる演奏で会場を盛り上げました。公演前日の23日(土)には出演者が講師となるワークショップが開催され、リズムセクションのグループには約70人が参加。一流の講師によるアドバイスに熱心に耳を傾けていました。



①ジャズボーカリスト、ハービー・トンプソンがムーンライト JAZZ オーケストラと共演②大学生グループ“Pseudostudents quartet”③22日(金)には6人の出演者が菅原小学校を訪問して演奏を披露④リズムセクションワークショップの様子



44団体目のアダプトプログラム参加団体となりました。

市民協働で住みよいまちへ アダプトプログラム調印式

11月26日(火)、市と三日市新町町内会は公共施設管理ボランティア支援事業“アダプトプログラム”の調印式を行いました。アダプトプログラムとは、市が管理する施設などの一定区画を養子に見立て、市民が里親となり維持管理し、市がその活動を支援するものです。三日市新町町内会では、18人が三日市三日目地内の一部市道で除雪を行います。出席した『三日市新を元気にする会』代表の出水氏は、「地域で助け合っていく形づくりをしていきたい」と意気込みを語りました。

吾、十有五にして学を志し 令和元年度野々市市立志式

文化会館フォルテを会場に11月27日(水)、立志式を開催しました。立志式は昔の成人式である元服にちなみ、市内在住の中学2年生を対象にして、次代を担う自覚と希望を持ってもらう目的で毎年実施しています。今年の立志者474人に対し栗市長は「将来の自分と向き合う節目の機会としてほしい」と話し、全生徒を代表して野々市中学校の藤田修平さんは「困難に立ち向かう気持ちと責任ある行動で、社会の役に立つ人間になります」と誓いの言葉を述べました。



力強い言葉と決意のまなざしがすてきでした。